

草津市立矢倉小学校通信 令和元年 10 月 16 日 NO.11



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

笑顔のパワー

親戚のせいちゃんは、笑顔がすてきな男の子だ。彼は今年、2年生になった。この夏、彼の家を訪ねたときは、家の裏を流れる谷川で一緒に水遊びを楽しんだ。せいちゃんに水をかけられ、びっくりする私を見て、彼はうれしくてたまらないようで、吐く息で呼吸が止まるのではないかと心配するくらい笑い転げてくれた。

そんなせいちゃんには、実は、アンジェルマン症候群という障がいがある。ぎこちなく歩き、発語はない。大人になっても発語はないままで、あっても非常に少ないらしい。その時もずっと「ああ」「うう」と、言葉にならない声を発するのだが、何を考えているか、何を願っているかは、接している内にわかってくるから不思議だ。そんな彼は、とにかく「よく笑う」「ほほえむ」のである。この障がいの特長だという。ちょっとしたことでもよく笑い、その笑顔がすてきなのは、きっと神さまからの贈り物なのだろうと思えてくる。いつもいつも、心底、幸せそうな笑顔で、まわりの人は、彼の笑みを見るとなんともいえない温かい気持ちになれるのである。

彼のお父さん、お母さんが言うことには、保育園でもそうだった。療育センターでも市役所でも、今通っている学校でも、ずっとせいちゃんは人気者で、「思いもかけない人とつながれるのは、せいちゃんのおかげやなあ。」とのこと。障がいは確かに重い。しかし、彼は間違いなくまわりを元気にするはたらきをし続けてくれている。

純真な笑顔のパワーはすごい。安心感と、他を思う気持ちを生みだしてくれるからだ。日々の生活をふりかえてみても、笑いのある教室、笑いのある家庭は居心地がいい。自分だけがいい目にあえたというような、そんないやな笑みでなく、一人ひとりが素直に笑顔でいられるようにしていきたい。そう願っている。

校長 大林 道範